

2018年度（平成30年度）
第2回福山市廃棄物減量等推進審議会 議事概要

2018年（平成30年）11月30日（金）14時～16時
福山市役所本庁舎6階60会議室

出席委員数（17名）

委員：生田政代 委員，内田隆士 委員，川久保和雄 委員，（副会長）桑田学 委員，河野吉男 委員，佐々木昭彦 委員，品川朋之 委員，瀬戸田誠 委員，園尾俊昭 委員，（会長）鶴崎健一 委員，藤井智恵子 委員，藤井裕久 委員，前田美都子 委員，三好良治 委員，山手秀之 委員，吉岡睦子 委員，渡辺毅 委員

事務局：環境総務課長，環境保全課長，廃棄物対策課長，環境啓発課長，環境施設課長，南部環境センター所長，西部環境センター所長，北部環境センター所長，北部環境センター新市業務担当課長，東部環境センター所長，環境総務課職員

【承認・報告について】

事務局から，委員18名中17名の出席により会議開催の定員数を満たしていることが確認された。また，会議は公開で行うこととし，傍聴人はないことが報告された。

【会長・副会長の選任について】

承認事項	承認内容
会長・副会長の選任	福山市廃棄物の処理及び再生利用等に関する条例施行規則第5条第2項により会長は鶴崎委員，副会長は桑田委員が選任された。

【議事（1）福山市次期ごみ処理施設整備基本計画（素案）について】

事務局から資料による説明後，質疑応答がされた。

質疑・提案（委員）	応答（事務局）
余熱利用の可能性について，具体的に検討しているのか。	発電した後の復水排熱の利用など次期ごみ処理施設に隣接した場所で余熱利用について検討を進めている。
公害防止計画の自主基準値について，国が進める温暖化対策と次期ごみ処理施設の自主基準値との整合性はどうか。	廃棄物由来の焼却に伴う熱で発電を行うため，化石燃料から発電したエネルギーに比べて二酸化炭素が少ないということで，発電された電気をしっかり地域内で利用するように検討しているので，国が進める温暖化対策と整合していると考えている。さらに，温室効果ガスの削減に繋がる

	ように検討していきたいと思っている。
本市は、現在、熱エネルギーの回収を行っていると思うが、さらに強化するというのか。	次期ごみ処理施設も積極的に発電することを検討しており、できる限り熱を回収して発電する計画をしている。
焼却処理により発生する二酸化炭素の吸収や処理は、どのような方式とするのか。	余熱・電気・二酸化炭素の利用については、費用対効果も含め、今後も引き続き検討していきたいと思っている。
東南海地震が30年以内に発生すると言われていたが、現在の計画には想定しているのか。	地震については、南海トラフと長者ヶ原断層において最大震度7で想定している。 現在想定のハザードマップや想定される地震の中で防災機能を検討する。
残渣と焼却灰はどう違うのか。	残渣は燃えた後のもので、その中に焼却灰と排ガス処理した後に出る飛灰がある。 福山市も限られた最終処分場をできるだけ長く使用することを考えており、引き続き燃え殻（焼却灰、飛灰）についても資源化の検討を考えている。
基本条件は、福山市及び府中市、神石高原町の一般廃棄物処理計画等でも整理しているのか。	広域処理ということで、各市町の一般廃棄物処理基本計画の中で整理を進める。
基本条件のごみ処理能力は、将来の人口減少や啓発活動による減量等も踏まえているのか。	すべて加味しており、災害時の災害廃棄物の処理も想定して設定している。
7月豪雨の際に1階が浸かった。毎日、ごみ出しを行ななかで、環境行政が素早くごみの収集等の対応してくれた。本当に行政の大切さを知り感謝している。	一般廃棄物は市が処理する一番の責任とっており、通常業務を継続しながら、素早く災害から復旧する為に行った。 次期ごみ処理施設についても、行政の責任としてしっかりとした施設を作っていきたいと思っている。
稼働開始が平成36年度とすると、6年間の間で焼却炉等も技術改新があると思うが、概算工事費は現在よりも多くならないか。	費用対効果を見ながら設計を進めたいと思っている。
二酸化炭素回収技術を有するごみ処理施設は、すでに利用されているのか。 また、その技術を導入することも考えているのか。	他市で焼却施設に二酸化炭素の分離装置を作っている事例がある。課題としては、回収した二酸化炭素を使い切る需要と供給が必要となる。 そのため、費用対効果の面も考慮し検討する必要がある。
既存施設と新しい施設の施設整備基本方針の比較があれば、より施設を造る意義が伝わると思う。	表現の方法を工夫したいと思う。

既存施設はどうなるのか。	焼却施設及びごみ固形燃料工場は休止し、全て次期ごみ処理施設で処理することとなる。
次期ごみ処理施設の周辺の道路整備等は連動して考えているのか。	施設周辺のインフラ整備は必要であるが、本計画には含めていない。

【議事（２）その他について】

事務局から資料による説明後、質疑応答がされた。

質 疑・提 案（委員）	応 答（事務局）
今後のスケジュールについて、第３回の本審議会を２月頃に開催する予定か。	技術的な検討会も開催しており、また審議会でも報告する。
福山市環境基本計画はどこが中心となって作成しているのか。	福山市環境審議会の中で議論している。
出席にあたり、丁寧な資料を事前に送付してもらったので、当日も配布する必要はなく、少しでも紙の使用量を減らしてもらいたい。	内容を精査する中で、事前資料と当日資料で変更となっている部分がある。 資料の配布については、今後検討する。
第二次福山市環境基本計画は、一般市民に広報あるいは啓発で知っていただく、浸透するように努力してほしい。	中身については、市民の方にわかりやすく表現できるように取り組んでいく。